

命の大切さ

阿南中学校 三年

萩野 里帆

(敬称略)

私は「命」とはどういうものなのか改めて考えてみました。当たり前のことだけれど、「命」は一人一つで、何よりも大切なものです。「命」が大切であることは言葉の上で理解するのではなく、一人ひとりが心から実感することで、より「命」の大切さに気づくと思います。

私が小学校低学年の時のことです。学校から帰って来て、家族全員が集まり、母が泣きながら、

「いつも仲良く遊んでくれたおじさんが大雨の仕事中に亡くなってしまいました。」

と突然言いました。私はまだ小さかったので人が死ぬとはどういうことなのかよくわかっていませんでした。でも、母の姿を見て、とても悲しい気持ちになりました。いつも笑顔の母があの時だけ泣いていたのでどれだけ悲しい出来事だったのか今ではよくわかります。命は一度失うと取り返すことができないからこそ、かけがえのないものであるとその時、私は思い知らされました。そして、数か月後曾祖母が亡くなりました。人はいつか死んでしまうということを改めて実感しました。私はこのような経験から、自分の命も相手の命も大切にしなければいけないと思いました。命を大切にするために、まずは自分自身を肯定し、自分自身をかけがえのないものとしてとらえることが必要であると思いました。なかなか自分をかけがえのない存在と思うことは難しいと思っただけれど、自分が今、元気に生活できているのは、遠い祖先から祖父母、父母、自分へと受け継がれてきた命があるからで、決して自分だけのものではなく、つながっているものであると考えました。そのように生まれてきたことが奇跡であると、理解することで自分を大切にしようと思いました。

6月に赤ちゃん授業を受けることができました。来てくださった助産師さんやお母さんから「命の大切さ」について教えてくれました。一人の人間の命ができる過程はものすごく奇跡であり、私たちが今まで成長できたのは、たくさんの人たちの支えと努力があるからだと感じることができました。

赤ちゃん授業では、実際に赤ちゃんとふれあう体験をしました。私は初めて赤ちゃんにふれあってみて、「かわいい」や「あたたかい」という印

象が強かったけれど、かわいい赤ちゃんの成長の裏には、楽しいことばかりではないと想像しました。昼夜問わず、赤ちゃんにミルクをあげたり、おむつを替えてあげたり、夜泣きがひどい時にあやしてあげたり。そのような親の大変さもあって赤ちゃんという命が大事に育てられているのだと実感しました。また、妊婦体験もすることができました。実際に赤ちゃんの重さを体験してみると、歩いたり座ったり横になったり、何かをしようとしても、重くて大変でした。しかしそんな中、生活しているお母さんたちがどれだけすごいのかがよく分かり、やっぱりお母さんは赤ちゃんの命を大事にしているんだなと深く感じました。だからこそ、私は生きていくということに感謝の気持ちを持ち、すべての命を大切にすることが必要であると思います。

最近のニュースでは、私たちと同じくらいの歳の子が自ら命を絶つという情報が入ってきます。どうしてそのような選択になってしまったのか、そうならないために私たちは何ができるのだろうかとよく思います。命は受け継がれてきたものであるからこそ、大切にしないとよく思いますが、傷つける権利は誰にもないということや一人ひとりが心から思い、誰かが苦しむことは絶対あってはならないことだと思えます。命の大切さについてもっと真剣に学び、個性を認め合うことが大切だと思えます。

私は、これからも自分の命や相手の命を大切にしていきたいです。自分の命はたった一つのかげがえのないものなので、今元気に生活できていることに感謝し、自分の人生を自分で豊かにして精一杯生きていきたいです。「生きていてよかった!」と思える日を家族やクラスメイトと共に作り、支えあっていきたいです。